

如法堂（奥の院）

山寺の境内の頂上までの1,015段の道のりは、奥の院で終わります。奥の院は、右側の如法堂と左側の大仏殿の、2つの建物で構成されています。

如法堂は、仏の教えの堂です。修行中の僧侶はここで、山寺を建立した僧侶、円仁（794年～864年）が始めた、非常に労力を必要とする写経方法を実践します。修行僧は大ヨモギの筆と石墨を使い、法華経を1文字ずつ写します。1文字写すごとに、ひれ伏して経の全文を3回暗唱します。このため、法華経8巻全てを写すのに4年かかることもあります。写し終えた経は、うるう年の11月28日に円仁への捧げものとして、納経堂に納められます。

納経堂には歴史的な仏である釈迦牟尼と、豊富な宝の仏である多宝如来の像が祀られています。